

【高等学校用】

令和6年度学校評価 結果・学校関係者評価

学校名	佐賀県立多久高等学校
-----	------------

1 前年度 評価結果の概要	・学習指導や資格取得に向けた取り組みを一層進め、自分の夢を形にできる多久高校のイメージ強化を図る。 ・道徳的なアプローチをして、いじめの未然防止に努める。また、いじめの早期発見のため、関係機関との連携を密にする。 ・生徒が主体的に活動し、充実感・達成感を味わわせ、プライドと品格を持った学校を目指す。
------------------	--

2 SAGAスクール・ミッション 学校教育目標	スクールミッション ○中部地区唯一の総合学科高校として、キャリア教育と4つの系列教育（人文科学・健康福祉・商業ビジネス・工業技術）の特性を活かした豊かな学びを提供すること。 ○各系列の強みを生かし、地域課題の解決に貢献する人材を育成すること。 学校教育目標 「自分の夢を形に」…校訓「仁愛・自主・創造」のもとに、教職員と生徒が敬愛と信頼のなかで、文教の風薫る校園の創造をめざすとともに 自らの夢を描き、目標に向かって挑戦する意欲を持ち、その実現へ前進する「知・徳・体」の調和のとれた、心身ともに健全な生徒を育成する。
----------------------------	--

3 スクール・ポリシー	アドミッション・ポリシー	カリキュラム・ポリシー	グラデュエーション・ポリシー	4 本年度の重点目標
	○自らの夢を描き、進路目標を実現するために積極的に学習や専門的な知識・技術の習得に取り組む生徒を求めます。 ○学習のみならず、部活動や学校行事・地域への貢献など、様々な活動に挑戦し、積極的に取り組む生徒を求めます。	○「産業社会と人間」「総合的な探究の時間」をキャリア教育の中核とし、「自分の夢を形に」するために、自己を見つめ、将来の進路について学ぶ教育課程を設定します。 ○共通科目（普通教科）及び4つの専門系列（人文科学・健康福祉・商業ビジネス・工業技術）の専門教科の多様な科目から学びたい系列・科目を選択し、基礎学力の向上と専門的知識・技術を学ぶための教育課程を設定します。	人文科学系型 自己実現のための基礎力を醸造し、考える力を育成し、対話等を通じてあらゆる事象に対応できる人材を育成します。 健康福祉系型 福祉の知識・技能の習得とともに、福祉マインドを身に付け、健全で持続的な地域福祉を支える人材を育成します。 商業ビジネス系型 商業の見方、考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことを通じて、ビジネスをはじめ地域産業社会の健全で持続的な発展を担う職業人として必要な資質・能力を持った人材を育成します。 工業技術系型 工業の基礎的分野の実習等を通して、様々な技術や技術を理解・習得し、健全で持続的な地域産業の発展を支える職業人として必要な資質・能力を持った人材を育成します。	①わかる・力が身につく授業の実践・・・基礎学力の向上、専門的な知識・技能の習得 ②キャリア教育の充実・・・現代社会への対応力やこれからの職業観の育成 ③進路意識の向上・・・”夢”実現への努力を惜しまない姿勢の育成 ④生徒会活動・部活動の活性化・・・思いやりを大切にした円滑な人間関係を作る心の育成 ⑤学びのための環境づくり・・・情報モラル教育の推進、自律心・ボランティア精神の涵養 ⑥地域との連携・・・地域に根差した信頼される学校づくり ⑦働き方改革の推進・・・業務の精選と効率化、職員の健康意識の高揚

5 重点取組内容・成果指標	中間評価	最終評価
---------------	------	------

(1)共通評価項目										主な担当者			
重点取組			具体的取組		中間評価		最終評価		学校関係者評価				
評価項目	取組内容	成果指標 (数値目標)			進捗度 (評価)	進捗状況と見通し	達成度 (評価)	実施結果	評価	意見や提言			
●学力の向上	○基礎学力の定着と進路意識の向上	○1年次は基礎学力の定着及び進学等希望者への目的意識と必要な学力の支援【進路】 ○2年次3年次の生徒は、進路が「ダンス等」を通じて進学先・就職先の研究【進路】 ○朝学習「マナトレ」小テストの合格率90%以上を目指す【学力向上】	・進路：模試を活用し、必要な学力を育成するとともに、志望校への合格100%を目指す。就職希望者が希望する会社への就職内定100%を目指す。 ・学力向上：全学年で朝の学習を実施。特に1、2年生の「マナトレ」については、基礎学力の定着を図り、学習用端末で「Classi」を利用してテストや対策を行うことで、多様な学習の機会を作る。		B	・進路：進路情報の提供、各種ガイダンスへの参加の呼びかけ等を行い、生徒の進路意識が高まるように取り組んだ。また、求人票閲覧システムを導入したことで、学校と家庭で情報を共有し、進路模試を行いやすくなった。今後ともその定着を図ってきたい。 ・進路希望者には、進路希望に合わせて補習参加や模擬試験受験の呼びかけを行い、学力向上を図っている。 ・学力向上：「マナトレ」では、中学校までの復習を中心に、学習用PCを用いて問題を配信して基礎力定着を図っている。	B	・3年生の就職希望者は希望する会社へほぼ100%内定することができた。1、2年生はガイダンス等を通じて企業研究を行い、進路意識の高揚が見られた。3年生の進学希望者は第一志望校へほぼ100%合格をすることができた。1、2年生は補習や模試等を通じて自分の学力を把握することができた。今後も学力向上を図るために、計画的に補習や模試の機会を提供していきたい。 ・マナトレを朝学習で中学校までの学習内容を復習しながら、マナテストで8割をとり残った生徒には別に時間を設けて基礎力定着を図った。	A	・「基礎学力の定着」「進路意識」については、目標を達成できていると思われる。前年度との比較ではなく、目標に対しての評価として、Aが適当であると思われる。	学力向上 進路		
	○資格取得の奨励と学力及び専門性の向上	○人文科学系列…全系列において、履修科目における確かな基礎学力をつけさせる。また、大学や医療系専修学校等への進学後に求められる学力を身に付けられるようにカリキュラムや指導を工夫する。	・人文科学系：基礎力診断テストにおけるC、Dランクを減少させ、体系的な学びの機会の充実を図る。随時小テストや補習等の実施、生徒個々に応じた家庭学習課題などを行うことで、個別に応じた学習指導を実施することによって確かな知識の習得を目指す。		B	・進学希望者に対する長期休業中の補習については、計画通りに実施した。各種模擬試験に対する受験者も一定しており、3年生は特に意欲がうかがえる。 ・基礎力診断テストでは、積み重ねを必要とする科目において2・3年生ともに習熟度の差が出た。3年級以上の学力はC2、実力はC3が平均値であった。2年級はC3、数学C2、英語D1が7月の平均値であった。2年生は4月よりも成績向上傾向にあるので今後も指導を重ねたい。	B	・基礎力診断テストにおいて、1年生はD3の人数が学年全体で増加した。学習の習慣化と学習内容の定着が著しく不足していることが原因である。2年生は7月の最終成績では4月よりも成績向上傾向にあり、3年生は2年次の成績維持、しかし積み重ねが必要科目で習熟度に差が出た。 ・日本語検定では、95%が4級に合格(2年生)、42.8%が3級(3年生)に合格した。	B	・「具体的な目標数値が示されていないため、評価しにくい部分があるが、成績向上傾向にあるということで、Bが適当である。学習の習慣化については家庭との連携が必要である。	人文科学系列主任		
	○健康福祉系列…介護職員初任者研修を充実させ、確かな知識と実践的な介護技術の習得を目指す。福祉性環境コーディネーター検定試験合格80%以上を目指す。	○健康福祉系列…介護職員初任者研修を充実させ、確かな知識と実践的な介護技術の習得を目指す。福祉性環境コーディネーター検定試験合格80%以上を目指す。	・健康福祉系列：外部講師(専門職)や地域福祉機関と連携し、実践的な学びの機会を充実を図る。随時小テストや補習等の実施、生徒個々に応じた家庭学習課題などを行うことで、個別に応じた学習指導を実施することによって確かな知識の習得を目指す。		B	・12月実施予定の福祉性環境コーディネーター検定試験に向け、定期的に課題の配付や個別指導を行うことができていた。今後は模試を複数回実施し合格率向上に向け指導を継続していきたい。 ・介護職員初任者研修の充実に向け、外部講師の授業や3年生の施設実習の実施など、より実践的な介護技術を習得することができている。	B	・福祉性環境コーディネーター検定試験については、合格者3名と目標には到達しなかった。今年度、学習用PCを活用した練習問題に取り組んだため、今後は早い時期から学習に取り組ませ合格率向上を目指したい。 ・2年生の施設実習をはじめ、多市役所と連携した義務教育学校への出前授業や総探において地域と連携した取組を行うことができた。	B	・目標に届かなかったということであるが、継続した取組があり、Bが適当である。	健康福祉系系主任		
	○工業技術系列…三級技能士などの取得向上、ジュニアマイスターシルバークラス達成者3名以上を目指す。	○工業技術系列…三級技能士などの取得向上、ジュニアマイスターシルバークラス達成者3名以上を目指す。	・工業技術系：資格試験の情報を速やかに確実に生徒へ伝える。生徒の希望により総探テーマに難関資格取得を設ける。		B	・10月時点でジュニアマイスターシルバークラス達成者が2名、年明けに結果発表される資格に挑戦している生徒が数名いるので上積み期待している。	B	・ジュニアマイスターゴールドクラス達成者が1名、シルバークラス達成者が4名と二つ合わせての人数は昨年度より減少した。今年もゴールド達成者がでて大いに評価できた。	A	・目標に対して十分に成果があげられていると考えられるので、Aが適当であると思われる。	工業技術系系主任		
	○商業ビジネス系列…全商検定3種目以上1級取得者5名以上を目指す ○各履修単位の年間計画を立てさせ、上位級を目指すように指導を工夫する。	○商業ビジネス系列…全商検定3種目以上1級取得者5名以上を目指す ○各履修単位の年間計画を立てさせ、上位級を目指すように指導を工夫する。	・商業ビジネス系：企業の即戦力となるビジネススキルを身に付ける。各学年ごとに科目の目標を周知し、資格取得に向けた学びを推進する。 ・小テストや補習を計画し検定スケジュールを手帳に記録させ意識の高揚を図る。		B	11月実施の全商ビジネス計算実務検定、ビジネス実務検定、1月実施の簿記検定、情報処理検定を目標に、引き続き商業科全体で情報共有をしながら学習指導を実施する。また、新規に高大連携アントレプレナーシップ教育プログラムを後期より導入することで、生徒の意識の高揚を図り、ビジネス教育の活性化につなげていきたい。	B	・3年生の全商検定3種目以上1級取得者は、3名で、目標に一步及ばなかった。 ・2年生は、補習計画を立案し、全員で取り組む指導を行った。その甲斐あって簿記2級(53.3%)、情報処理2級(68.9%)の合格を出すことができた。 ・新規事業の高大連携アントレプレナーシップ教育がスタートし、最後まで頑張っている生徒の育成を目指し、今後も引き続き商業科全体で指導していく。	B	・目標に届かなかったため、Bが適当であると思われる。しかしながら、補習を組んで高い合格率を達成していることは、評価できる。また、新しい取り組みを始めたということで、興味深い。	商業ビジネス系系主任		
●心の教育	●生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動	○「道徳教育の全体計画」に基づく授業実施及び人権・同和教育行事で「理解できた」とする生徒の割合80%を目指す。 ○小高連携交流授業の満足度80%を目指す。	・人権・同和教育に関するHRや講演会、教科・科目「公共」「社会福祉基礎」「保健(等)」における人権教育により、他者理解や人権意識の伸長を図る。 ・小高連携交流授業により、他者理解や人権意識の促進を図る。		B	・人権・同和教育に関するHRは計画通り実施できた。講演会には予算がないため講師の選定が難しい。各教科、科目による人権教育は進んでいるようである。 ・小高連携授業により、他者理解や人権意識を促進できるように準備を進めている。	B	・12月生徒・職員を対象として、人権・同和教育講演会を開催した。講演内容は多文化共生・異文化理解で、県のグローバル人材育成のための講師派遣事業により実施した。生徒へのアンケートはFormsを用いて行ったが、アンケートの回答率が75%と低く、振り返りの時間の確保が必要である。	B	・アンケートの回答率を上げるための方法を考える必要がある。保護者への連絡も合わせて行ってみてはどうだろうか。評価としてはBが適当であると思われる。 ・小高連携事業は小学生に大変好評のようである。また行きたいという声も聞かれた。是非継続してもらいたい。	人権・同和教育担当 企画研修		
	●いじめの早期発見、早期対応に向けた取組の充実	○職員の見守り、共通認識により、いじめ防止、事案対処等について組織的対応ができていると回答する教員の割合を100%にする。	○職員の共通理解、共通認識により、いじめ防止、事案対処等について組織的対応ができていると回答する教員の割合を100%にする。		B	・計画通り、QUTテスト及びいじめの実態調査を実施するとともに、必要に応じて校内対策会議を開催しながら、関係職員の見守り、いじめの早期対応に向けた取組を実施できている。	B	・年間を通して、予定していた複数のQUTテスト及びいじめ実態調査を実施し、いじめの認知があった場合は、直ちに関係生徒等に関き取り調査を行い必要に応じて校内対策会議を開催して早期解決に向けた取り組みを行った。事案Oに向けた更なる取組の継続が必要である。	B	・いじめ事案の個別の対応は行っていたというようであるが、未然防止については、現在行っている取り組みに加えて道徳的な視点からのアプローチやSNSの啓発等の啓発活動にしっかりと取り組んでほしい。評価はBでよいと思う。	生徒指導 教育相談		
	◎佐賀県や多久(地元)への愛着を醸成するための教育	○佐賀県や多久(地元)への愛着を醸成するための教育	・地域の先人や自然、伝統文化に関するフィールドワークや佐賀の歴史や文化、産業などに精通する講演会を実施する。		B	・地域の先人の偉業や自然と環境の保護に関するフィールドワークを行うことができた。また、文化祭において郷土の芸術を発表したり、鑑賞したりして学びを深めることができた。	A	・将来世代に伝えたいと考える生徒は78.9%ではあるが、地域に愛着を感じている生徒は85.9%である。文化祭や総合学習等を通して、郷土芸能を披露、鑑賞して主体的に学びを深めた。「祭りや芸能」の講演会では、身近な行事の本来的な意味や意義はもちろん、伝統と多様性についても改めて考える良い機会となり、佐賀県に誇りや愛着を感じる生徒の割合は、91.7%となった。	A	・地域の文化や歴史に触れる機会が得られたり、地域とのつながりを感じること、地域に対する愛着が湧いていると思われる。地域とともにある学校として今後も継続してもらいたい。高い地域への愛着があるよううれしく思う。評価はAでよいと思う。	さが'祭り		
	●健康・体づくり	●「望ましい食習慣と食の自己管理能力の育成」	●「健康に良い食事をしている」生徒90%以上	・食に関する実態調査から課題を把握するとともに、生徒の食の自己管理能力を育成するために、心身の健康と食の関わりについての理解を促すなど、食に関する指導を学校全体の教育活動を通して行う。		B	・家庭基礎や保健の授業を中心に、様々な教科を通して、心身の健康と食の関わりについての理解を促すことができた。 ・健康的な食生活を営むことに資する意識は高く、昼食はほとんどの生徒が弁当を持参しているが、清涼飲料水の摂取状況について注視していきたい。	A	・食に関する指導全体計画に沿って、各教科等と確実に指導を行うことで、心身の健康と食の関わりについての理解を促すとともに、食の自己管理能力の育成につなげることができた。 ・生徒の食への関心は高く、「健康に良い食事をしている」生徒の割合は90%であったが、好き嫌いがある生徒が半数いるため、調理実習等を通して、様々な食材を摂取する機会をつくりたい。	A	・食への関心の高さは、健康にもつながるので良いことだと思うので、このまま継続してもらいたい。目標を達成しているのAでよいと思われる。	保健厚生 係 家庭科	
	●業務改善・教職員の働き方改革の推進	●業務効率化の推進と時間外在校等時間の削減	●教育委員会規則に掲げる時間外在校等時間の上限を遵守する。 ○時間外勤務時間の上限を意図した働き方の浸透を図り、時間外勤務時間の前年度比5%減を目指す。	○「道路交通法」などの交通法規等の遵守を常日頃から指導をし、生徒の交通安全意識の向上を図るための交通安全教育を実施する。		B	・歩行者や自転車の交通マナーを見守るために、毎日の登校指導を継続して行っている。また、生徒の交通安全の意識の向上を図るための交通安全教育を実施する。	B	・毎日の登校指導は計画通りに実施している。今後も継続し生徒の動向を見守り、交通マナー等に関するしるしや声かけを行う。 ・管轄の警察署とも連携を図りながら、近隣の交通事故に注意する場所などの情報について生徒へ伝達し注意喚起を行っている。今後とも継続していきたい。	B	・令和6年11月1日に「道路交通法」が改正され、自転車のながらスマホの罰則強化をうけて、小高警察署より講師を招き交通安全教育を実施して生徒への周知をはかり、マナーアップへの対策を講じている。 ・計画通り、毎日の登校指導を継続しており、教育後援会や管轄の警察署とも連携しての見守りや声かけ指導など実施した。今後とも継続していきたい。	B	・自転車通学時のヘルメット着用は、自分自身の身を守るための行動であることを十分に理解させてほしい。マナーアップも含めて継続して取り組んでほしい。評価はBが適当であると思う。
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	●業務効率化の推進と時間外在校等時間の削減	●教育委員会規則に掲げる時間外在校等時間の上限を遵守する。 ○時間外勤務時間の上限を意図した働き方の浸透を図り、時間外勤務時間の前年度比5%減を目指す。	・会議1日前までに資料を配付し会議時間の短縮を図る。 ・時間外在校時間を意図した業務遂行を心掛ける。 ・県政定例の平日日曜日に夏季休暇6日間を取得するように呼び掛ける。 ・夏季休暇の取得日数平均14日を達成できるより3か月程度毎月に呼びかける。		B	・会議資料の配付日配布については、おおむね達成できている。それに加えて、7月より職員会議資料を電子データで配布するようにしたため、印刷の時間を削減することができた。 ・時間外の勤務をできるだけ減らすように、両面で働き合わせている分の業務分担を図っている。 ・夏季休暇6日の取得については、10月末までに達成できる見込みである。	B	・運営委員会・職員会議の資料については電子データ化し、印刷時間の大幅な削減につながった。 ・業務遂行集中しそうな職員に対しての支援体制の確立には至らなかった。 ・夏季休暇は完全に取得できたが、年間の年次休暇の取得は平均13.07日で、わずかに目標に届かなかった。	B	・生徒をもっと指導していただきたいと思う一方で、先生方の働き方改革の観点からはそうも言えない面もあり、非常に難しい問題だと思っている。年次休暇は目標までは取っていただきたい。評価はBが適当だと思われる。	管理職		

(2)本年度重点的に取り組む独自評価項目										主な担当者		
重点取組			具体的取組	中間評価		最終評価		学校関係者評価				
評価項目	重点取組内容	成果指標 (数値目標)		進捗度 (評価)	進捗状況と見通し	達成度 (評価)	実施結果	評価	意見や提言			
★唯一無二の誇り高き学校づくり	★実践的・体験的な活動の充実と県内外への情報発信 ★地域課題の解決に向けた取組の充実	★自分の学校を中学生に勧めることができる生徒の割合80%以上、教職員の割合90%以上を目指す。 ★部活動や学校行事・地域行事など様々な活動に挑戦し、積極的に取り組む生徒の割合80%以上にする。	・学校HPの月に1回以上の更新を行う。 ・学校通信「多久高だより」を活用し、学校の魅力を積極的に発信することができた。今後も継続して発信を続けていきたい。 ・学校HP以外の情報発信についても検討している。 ・「ごども教室」や「夏祭り」など、要請を受けて様々な地域行事にボランティアとして参加している。	B	・学校HPは、月1回以上更新することができている。 ・学校通信「多久高だより」や学校HP「多久高news」を活用し、学校の魅力を積極的に発信することができた。今後も継続して発信を続けていきたい。 ・学校HP以外の情報発信についても検討している。 ・「ごども教室」や「夏祭り」など、要請を受けて様々な地域行事にボランティアとして参加している。	A	・学校HPの更新及び学校通信「多久高だより」の発行により、学校の魅力を積極的に発信することができた。また、YouTubeやInstagramなどの活用も考えていきたい。 ・学校評価アンケートでは、「学力向上と人間力向上に力を入れている」と回答した職員が90%、(本校に学ぶ)と回答した生徒が90%であった。職員・生徒いずれも90%が本校を肯定的に評価しており、中学生にも勧めることができる学校であると評価できる。 ・レオクラブを中心に様々な地域行事にボランティアとして積極的に参加することができた。また、総合的な探究の時間を通して、地域の課題に取り組むというグループが出てきた。	A	・子供が通学していれば、ホームページを利用することもがあるが、そうでないとホームページを見る機会ほとんどない。TwitterなどのSNSを利用した広報活動をしている学校もあると聞く。広報の方法としては有効と思われるが、先生方の負担になりすぎるとの問題である。例えば「新聞部」のような活動をするのはどうだろうか。学校評価アンケートの結果や地域行事へのボランティアへの積極的な参加など、好ましい動きが増えているようであり、評価はAが適当だと思う。	管理職 教務 企画研修		
	○生徒会活動	○生徒会活動・部活動等の活性化 ○生徒会行事の充実化 ○式典等の進行を生徒会役員にて行う	○部活動加入率を70%以上にする。 ○「生徒会行事に積極的に参加できた」と答える生徒を80%以上に上げる。 ○生徒会役員として式典等の司会進行100%実施する。	・年度当初の対面式と部活動紹介を同日にするなど工夫し、勧誘に努める。 ・入部受付期間を延長し、入部を迷っている生徒に声をかける期間を設ける。 ・生徒会役員のミーティングを密にし、行事の見直しや工夫を行う。 ・生徒会役員の司会進行については、リハーサル等を行い式典については全て行う。	A	・生徒会活動にも感染防止対策や熱中症予防などを行い、部活動加入率向上や生徒会ミーティングなども進捗に行っている。 ・年間を通して行事が滞滞に行えるように、行事の見直しや工夫を行っている。 ・学校行事や儀式集会では、生徒会役員が運営進行を行っている。 ・国民スポーツ大会や北部九州総体など、生徒活動員やボランティアに積極的に参加している。	A	・感染防止対策や熱中症予防などを行い、生徒会活動ミーティングなども円滑に行うことができた。 ・部活動加入率の向上に努力したが、中途退部者や転部者が増えている。 ・学校行事や儀式集会では、生徒会役員が運営進行が定着した。 ・国民スポーツ大会など、生徒活動員やボランティアに参加できた。	A		・部活動の中途退部者や転部者が増えていることは残念であるが、生徒会の活動が活性化しているよう素晴らしい取り組みだと思う。今年度は、国スポ・全障スポ、全国総体のボランティアとして、たくさん活躍したと聞いている。多久高校の良さが出たと思う。評価はAでよいと思う。	
○ICT教育	○1人1台端末を活用した授業改善 ○オンライン授業の技術の向上	○1人1台端末を活用し、個々の意見や考えを共有すること思考力を高める活動を行う。アンケートで「自身の成長に」思考を深めることができた」生徒の割合75%以上を目指す。 ○オンラインHR研修を実施し、Teamsの操作ができる生徒の割合を80%以上にする。	・1人1台端末を活用し、Microsoft TeamsやForms、Whiteboardの機能を利用して、自分の意見・考えと他者の意見・考えを比較したり共有したりするなど、考えを深める活動を行う。 ・アンケート調査を実施し、傾向を把握する。	B	・1人1台端末を活用し、Microsoft TeamsやForms、Whiteboardの機能を利用して、自分の意見・考えと他者の意見・考えを比較したり共有したりするなど、考えを深める活動を行う。 ・アンケート調査を実施し、傾向を把握する。	A	・Teamsを活用したオンラインHRでは、90%を超える生徒が参加でき操作方法を再確認できた。 ・1人1台端末を活用した授業では、約80%の生徒が「ICTを活用した授業で考えが深まり理解できた」と回答した。 ・TeamsやFormsに関しては、2学期以降も定期的に操作方法を確認できる機会を作り、活用できる生徒を増やしていきたい。	A	・Teamsを活用したオンラインHRでは、90%を超える生徒が参加でき操作方法を再確認できた。 ・生徒アンケートを実施し、約80%の生徒が「ICTを活用した授業で考えが深まり理解できた」と回答した。 ・各種アンケートやFormsを活用して実施した。アンケートは、Teamsのファイルヘッダーを配布する形で実施し、Teamsの活用方法についても伝えることができた。	A	・目標に対して達成できており、評価はAでよいと思う。ICT機器の活用は積極的に使ってもらいたい。	生徒会 教務
○キャリア教育	○手帳指導(「自己管理能力」の育成) ○総合的な探究の時間」の充実	○手帳活用アンケートで「生活改善できた」旨の回答70%以上を目指す。 ○「総合的な探究の時間」の指導要領に沿った学年・系列指導の充実を図り、事後アンケートで「自身の成長に」つながることができた」旨の回答70%以上を目指す。	・学年、教科系列、部活動における手帳の活用及び指導を促進する。毎週月曜日の朝学習時間を手帳指導に充て、必要に応じて声かけを行う。 ・生徒及び職員への啓発、情報提供、資料配付、呼びかけを随時行う。	B	・手帳については、1学年を中心に週に1度のペースで手帳指導が実施できている。しかし、学年が上がるにつれ、手帳の活用については個人差が大きいようだ。今後とも継続して指導を行う予定である。 ・総合的な探究の時間については、2年生で新しい教材を導入した。現在、学年と連携を図りながら進行中である。	B	・手帳については、目標の数値を達成できなかった。活用については個人差が大きく活用できていない生徒も多い。今後、活用のあり方や指導について、職員全体で検討する必要があると考える。 ・総合的な探究の時間については、系列や学年別の指導により、「自身の成長につながる」ことができた。1学年の指導70%を達成できた。	B	・手帳の活用は、スケジュール管理をする観点では、将来的に非常に有効であると思うが、TeamsなどICTを活用したものによることを考えてもよいのではない。評価はBでよいと思う。	企画研修		

●…県共通 ○…学校独自 ◎…志を高める教育 ★…唯一無二の誇り高き学校づくり

6 総合評価・次年度への展望	・学習指導や資格取得に向けた取組を一層進めるとともに広報活動に努め、学校教育目標である「自分の夢を形」を実現している多久高校のイメージを強化する。 ・道徳的なアプローチを通して、いじめの未然防止に努める。また、いじめの早期発見のため、関係機関との連携を密にする。 ・生徒が主体的に活動し、挑戦する心を持ち、充実感・達成感を味わうことができる体験を重ね、プライドと品格を持った学校を目指す。
----------------	--